

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

下北山村まち・ひと・しごと創生推進計画

2 地域再生計画の作成主体の名称

奈良県吉野郡下北山村

3 地域再生計画の区域

奈良県吉野郡下北山村の全域

4 地域再生計画の目標

本村の人口は、1970年の2,360人をピークに、年々減少傾向にあり、2015年では895人(国勢調査)となった。住民基本台帳によると、2020年8月末の総人口は867人となっている。国立社会保障・人口問題研究所の推計では、2045年には373人、2065年には170人まで減少する。また、構造的な高齢化も深刻化してきており、2040年以降は65%前後の高齢化率で推移するものとみられる。生産年齢人口については、主要産業であった林業が衰退し、2010年時点では465人いたが、現状で人口が推移すれば、2025年には242人半減し、労働力の低下に伴う森林や農地の荒廃が危惧される。

本村の人口増減については、2018年10月～2019年9月の人口動態を見ると、自然増減がマイナス18人、社会増減がマイナス7人となっており、近年では同水準で人口減少が続いている。また、合計特殊出生率については、計画開始時(2020年)では0.75、出生数はおおむね5人前後で推移しており、全国水準よりも低い状況が続いている。

これらの人口減少による就業人口の減少や地域内生産の低下に伴い、税収が減少し、さらに高齢化率の上昇に伴い、社会保障の負担割合の増加が予想されるなど、村の財政状況の悪化が懸念される。

この問題を解消するべく、「きなりの郷下北山村 元気、本気の人気村」を将来像とし、3つの基本目標および2つの横断的目標を掲げて活力ある村づくりを推進

し、人口減少に歯止めをかける。

- ・基本目標 1 森と生きる（仕事づくり ものづくり ひとづくり）
- ・基本目標 2 森に遊ぶ（もてなし、ふれあい、感動づくり）
- ・基本目標 3 森で育む（子どもの笑顔ときなりライフ）
- ・横断的目標 1 多様な人材の活躍を推進する
- ・横断的目標 2 新しい時代の流れを力にする

【数値目標】

5-2 の①に 掲げる 事業	K P I	現状値 (計画開始時点)	目標値 (2024年度)	達成に寄与 する地方版 総合戦略の 基本目標
ア	雇用創出数（製造業）	25社	50社	基本目標 1
	新規事業者数	1人	3人	
イ	交流人口（観光入込数）	154,132人	170,000人	基本目標 2
	観光消費額（一人当たり）	982円	1,100円	
ウ	社会増減（resas2018年人口 増減・転入数・転出数）	-12人	0人	基本目標 3
	合計特殊出生率	0.75	1.25	
エ	障がい者の雇用率	21%	25%	横断的目標 1
	地域おこし協力隊の定住数	3人	10人	
	民間との連携協定件数	5社	7社	
	関係人口数	25人	50人	
	下北山村公式SNS のフォロー 一件数	1,816件	2,200件	
オ	Society5.0 の実現（Wi-Fi 設 置箇所数）	5箇所	13箇所	横断的目標 2
	65 歳以上の就労者数（A I の	54 人	70 人	

	活用効果)			
	SDGs 未来都村としての認定数	—	1 件	

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

5-2 のとおり。

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

- まち・ひと・しごと創生寄附活用事業に関連する寄附を行った法人に対する特例（内閣府）：【A2007】

① 事業の名称

下北山村まち・ひと・しごと創生推進事業

ア 森と生きる（仕事づくり ものづくり ひとづくり）事業

イ 森に遊ぶ（もてなし、ふれあい、感動づくり）事業

ウ 森で育む（子どもの笑顔ときなりライフ）事業

エ 多様な人材の活躍を推進する事業

オ 新しい時代の流れを力にする事業

② 事業の内容

ア 森と生きる（仕事づくり ものづくり ひとづくり）事業

多くの方が下北山村を魅力的と感じるのは、自然に恵まれ、住民気質が穏やかであることが評価されている点がある。またその一方で、買い物の不便さや交通インフラについての利便性の悪さが指摘されている。

下北山村は村土の90%を森林が占めている。村ではこのかけがえのない豊富な森林によりもたらされる安らぎや美しい空気、透き通った川、ダム湖など、さまざまな恵みを活かし自然と共に生きる暮らしを実践してきた。このような村特有の自然をさらに活かし、魅力ある特産品の開発や、多様な分野における雇用を創出する。

<具体的な取組>

- ・持続可能な森づくりと森林経営

- ・下北山村独自の「きなりブランド」の研究開発
- ・起業・就業支援
- ・地域内消費の喚起 等

イ 森に遊ぶ（もてなし、ふれあい、感動づくり）事業

世界遺産に指定されている大峯奥駈道や前鬼をはじめとした下北山村の豊かな自然資源と人的資源を最大限に活かし、おもてなし力の向上とPRの強化を進めることによって、交流人口の増加を目指す。

また、古くからの伝説や下北山村にしかない恵まれた自然環境を題材に、新しい伝説となるきなりの郷の物語を創造し、また、それに関連したふるさと納税返礼品を設ける等をして、下北山村ファン（新規関係人口）の獲得を目指す。

<具体的な取組>

- ・交流・関係人口の拡大
- ・きめ細やかなもてなし体制の推進
- ・新しい観光資源の発掘 等

ウ 森で育む（子どもの笑顔ときなりライフ）事業

美しい自然と人情味豊かな村民との関係の中に営まれる、心安らぐ生活環境を強みに、元気なシニア世代や若い世代の定住促進や移住者との交流を通じて、きなりの郷のひとと自然が織りなす子育て、教育環境づくりを更に進める。

また、あわせて地域交通の整備、地域防災力の向上、いつまでも健康長寿の高齢者への支援の充実など、いつまでも住みたい、住んでみたいきなりの郷づくりを更に進める。

<具体的な取組>

- ・関係人口をはじめとする定住・転入の促進
- ・結婚・出産・子育てへの切れ目ない支援
- ・暮らしやすい安心できる「きなりの郷づくり」 等

エ 多様な人材の活躍を推進する事業

地域創生の推進のためには、農林業、商工業、子育て、教育、福祉分野等すべての分野での人材確保・定着への支援と、民間組織との連携が

必要である。また、村内事業所等におけるいわゆる「働き方改革」への取組促進を図るとともに、女性、障がい者、高齢者、そして、村外の地域づくりに関心のある「関係人口」等の多様な人材が様々な場で活躍できる「きなりの郷」をめざす。

<具体的な取組>

- ・多様なひとびとの活躍による地方創生の推進
- ・「きなり生活」の魅力等の情報発信 等

オ 新しい時代の流れを力にする事業

情報技術の進展は、予想をはるかに超えるスピードで暮らしに大きな変革をもたらしていく。まち・ひと・しごと創生のスピードを速めるため、利便性や効率性に大きく寄与することが期待される Society5.0 の実現に対応していく。

持続可能な開発目標 SDGs は先進国、発展途上国を問わず、経済・社会・環境の三側面における持続可能な開発を統合的取組としている。その理念は地方創生につながるものである。

<具体的な取組>

- ・未来技術を活用したむらづくり（Society5.0への対応）
- ・地方創生 SDGs の実現などの持続可能なむらづくり 等

※なお、詳細は第2期下北山村まち・ひと・しごと創生総合戦略のとおり。

③ 事業の実施状況に関する客観的な指標（重要業績評価指標（KPI））

4の【数値目標】に同じ。

④ 寄附の金額の目安

15,000千円（2020年度～2024年度累計）

⑤ 事業の評価の方法（PDCAサイクル）

毎年度5月に外部有識者による効果検証を行い、翌年度以降の取組方針を決定する。検証後は速やかに下北山村ホームページで公表する。

⑥ 事業実施期間

地域再生計画認定の日から2025年3月31日まで

5-3 その他の事業

該当なし

6 計画期間

地域再生計画認定の日から 2025 年 3 月 31 日まで